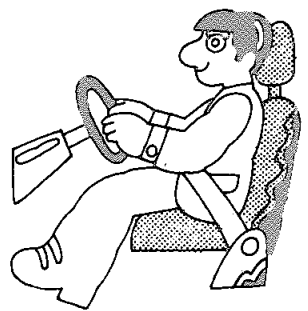


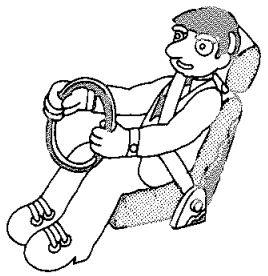
★これだけはぜひ!安全運転のために!★

## 安全運転のために

★正しいドライビング・ポジションは急カーブや振動に対して身体がふらつかず、両手両足を敏速かつ、正確に動かせる姿勢です。また前後の視界が十分確保でき、長距離運転にも疲れな姿勢であることも大切です。(シートの調整の項目参照)

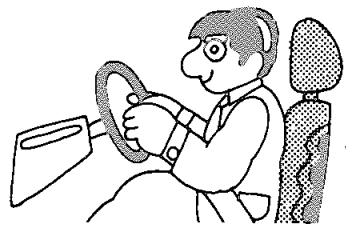


★セーフティ・ベルトは必ず装着して運転しましょう。特に腰ベルトは腰骨の位置にピッタリと装着しましょう。(セーフティ・ベルトを忘れずにの項目参照)



腹の位置にかけると万一のとき身体にくいこみ危険です。

★ヘッド・レストの位置はヘッド・レストの間はにぎりこぶしの幅以上あけないようにしましょう。



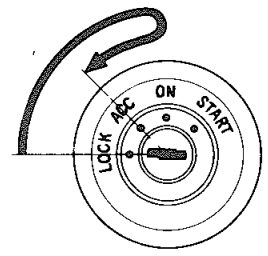
ヘッド・レストとの間隔が多いと万一のとき危険防止に役立ちません。

★長い坂道を下る場合はエンジン・ブレーキを活用しましょう。(ブレーキ・クラッチの使い方の項目参照)

フット・ブレーキを踏み続けるとブレーキの効きが悪くなる恐れがあります。



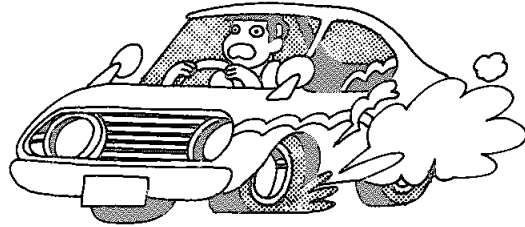
★エンジンを停止して移動する場合は(けん引される場合など)エンジン・スイッチは一度ONにしてからACCの位置にしましょう。(エンジン・スイッチの項目参照)



走行中はキーを絶対にロックの位置にまわさないでください。ハンドルが切れなくなり危険です。

★タイヤは

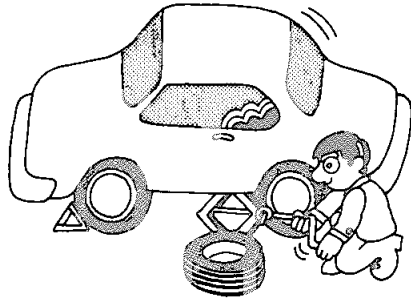
1. 走行前に必ず空気圧を点検しましょう。  
(タイヤの空気圧の項目参照)
2. 摩耗して溝が浅くなったら取り替えましょう。  
(タイヤの溝の深さの項目参照)



空気圧が適正でなかったり、摩耗がはげしいような場合は、走行中、パンク、バーストを起こしやすくなり危険です。

★ジャッキを使用するときは

所定の位置に確実にセットしましょう。  
輪止め、パーキング・ブレーキを忘れずに。  
(パンクの処置の項目参照)



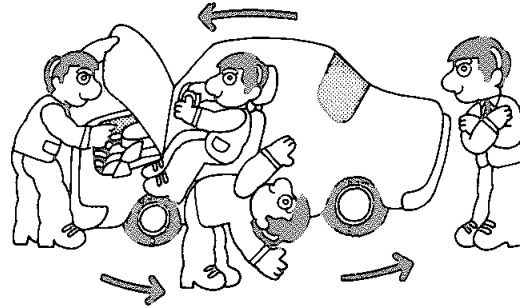
ジャッキがはずれると車が急に傾き大変危険です。

★排気ガスは

密閉した車庫内で長時間エンジンをかけたままにしておくとも空気を汚し、ガス中毒を起こす危険があります。

★作業点検は

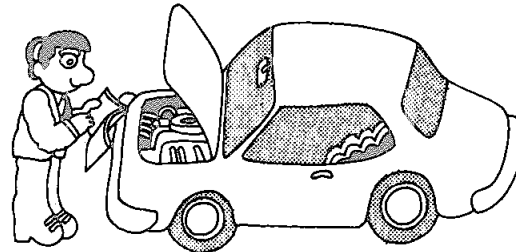
故障を未然に防ぐため、必ず行ないましょう。  
(お出かけ前の点検の項目参照)



★定期点検は

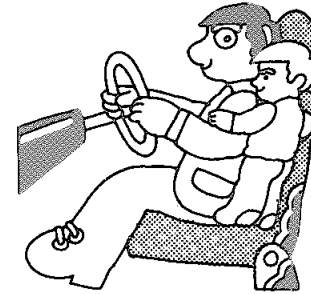
整備手帳にもとづいて必ず行ないましょう。

車の性能を維持し安全に運転していただくためには大切なことです。



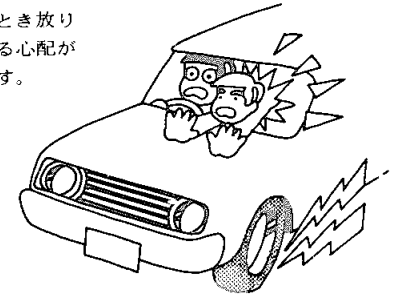
お子様を乗せるとき—

★なるべくおとなと一緒にリヤ・シートに  
すわらせましょう。



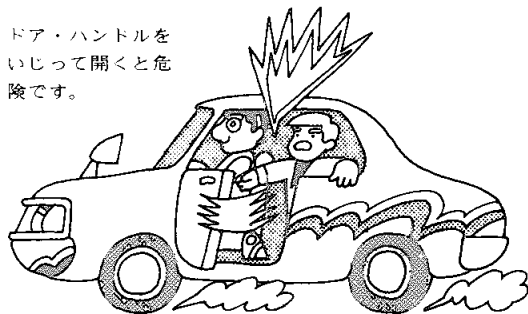
助手席ではドライバーのじゃまになります。

万一のとき放り出される心配があります。



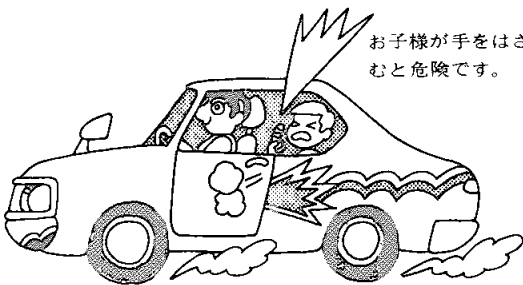
★ドア・ロック・レバーを確実にセットしましょう。

ドア・ハンドルを  
いじって開くと危  
険です。



★必ずおとながドアの開閉をしましょう。

お子様が手をはさ  
むと危険です。



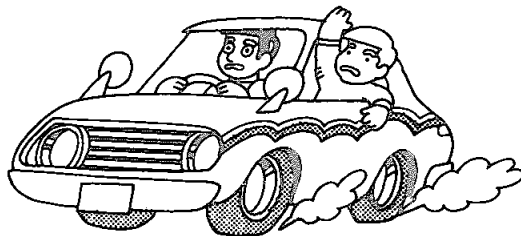
★車から離れるときは、お子様と一緒に連れてゆきましょう。



室内にお子様を残しておくと思いがけ  
ない事故が起きる場合があります。

★窓から顔や手などを出させないようにしま  
しょう。

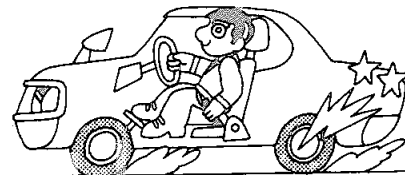
窓から乗り出すと思いがけない、  
ケガをすることがあります。



対向車や、後続車に迷惑をかけ、またマナー  
違反です。

## 故障を防ぐために——

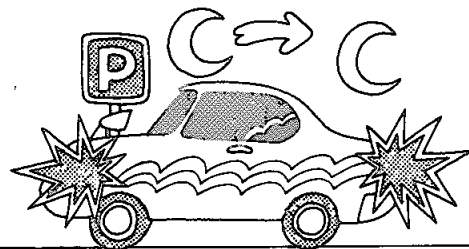
★パーキング・ブレーキ・レバーは  
走行する前に必ず確実にもとまでもどし、インジ  
ケーター・ランプが消灯するのを確かめましょう。  
(パーキング・ブレーキ・レバーの項目参照)



ひいたまま走行するとひきずりを起こしブレーキ  
が効きにくなります。

★バッテリーは

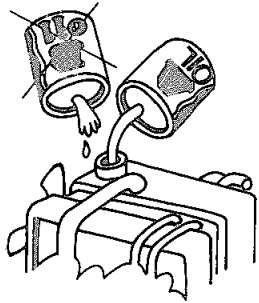
完全充電でもエンジンを停止してランプ類を使用  
すると消耗が激しいものです。パーキング・ラン  
プ、ハザード・ウォーニング・ランプは必要以外  
には、使用しないように。



バッテリーがあがりエンジン始動ができなくなる  
ことがあります。

★オイルの補給は

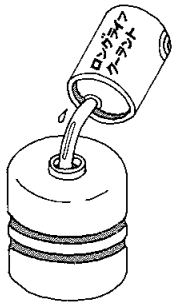
同品質か、それ以上のオイルを使用しましょう。  
(トヨタ純正キャスル製品の項目参照)



質の異なったオイルを補給すると性能が低下する恐れがあります。

★冷却水は

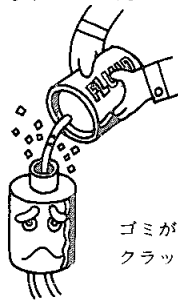
気温に応じた適当な濃度のロングライフ・クーラントを入れましょう。



ロングライフ・クーラントを入れないと水が凍りエンジンを破損する恐れがあります。

★ブレーキ・フルードを補給するときは

同品質のフルードを必ず使いましょう。なお、タンク内にゴミがはいらないように十分注意しましょう。(トヨタ純正キャスル製品の項目参照)

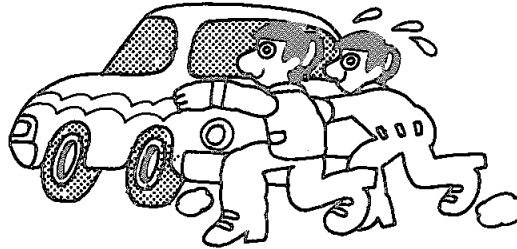


ゴミがはいるとブレーキが効かなくなり、クラッチは切れなくなることがあります。

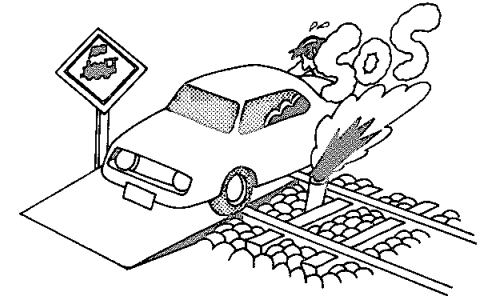
万一のために

★エンストして始動できなくなったときは

1. 付近に人がいる場合は安全な場所まで押しってもらうてください。



2. マニュアル・トランスミッション車の場合  
急を要するときはスターターで抜け出してください。ギヤをセカンドまたはサードに入れ、スターターをまわします。  
この時クラッチから足を離しておきます。また平坦路の場合はトップにすると早く抜け出せます。



踏切など危険な場所では、保安炎筒で合図してください。

★高速走行中、パンクやバースト

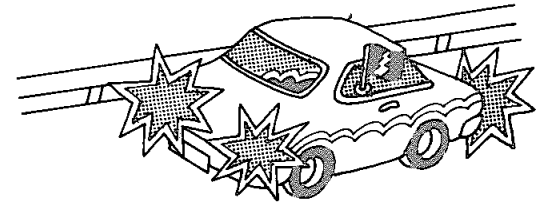
(タイヤの空気が急に抜けること)したとき。

ハンドルをしっかりとって急ブレーキは踏まないようにしましょう。

急ブレーキを踏むとハンドルを強くとられ、車が横転することがあります。

★故障したら

車を路肩に寄せハザード・ウォーニング・ランプを点滅させるか、または故障車とわかるように赤旗などを目につくよう表示します。



★遠出して故障し、なおせないときは

整備手帳のサービス網をご覧になって、最寄りの取扱販売店へ連絡しましょう。